

神根中だより

～歌声と笑顔あふれる学校～

令和4年10月号

学校教育目標
主体的に学ぶ、
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

学校改革・3…授業改革「学びの共同体」の取組み

校長 松村 一人

「学校改革・3」は、「授業改革」です。今までの日本の授業の多くは、教師が一方的に教える講義型の授業でした。明治維新を経て、先進国になんとか追いつこうとする日本では、科学や技術や医学などがはるかに進んでいる、見本や手本となる国々がありました。ですから、そのような講義型・詰め込み型の授業でも良かったのでしょうか。とにかく真似（模倣）をすれば良いのですから。でも、今では日本も先進国の一員となり、お手本とする国や真似をすればそれで良いという国は見当たりません。正解のない世界に我々は放り出されてしまったのです。ただ勉強して、暗記して、問題が解ければ良いということではなくなりました。コミュニケーションを駆使して、新たな難問にもみんなで最適解を導きださなければいけない創造の時代になっているのです。

そんな時、私たち（校長）は、東京大学名誉教授の佐藤学先生が提唱する「学びの共同体」という理論と実践に出会いました。これを実践した学校は、学力が向上し、不登校が減り、荒れた学校も立ち直っていったということです。そんな事例がたくさんあります。そこで、神根地区の全小中学校9校（神根中・北中・在家中・差間小・神根東小・木曾呂小・神根小・在家小・根岸小）で、この「学びの共同体」に取り組むことにしました。（差間小は数年前から、北中は先んじて1学期当初から取り組んでいます。）夏休みには、佐藤学先生を神根中にお呼びしました。神根地区の小中学校のほぼ全員の先生方が本校に集まって講演を聴き、2学期から少しずつ「学びの共同体」を始められています。

「学びの共同体」では、グループで「学び合う」ことに主眼がおかれます。ただし、「教え合い」ではないのです。分かる人が分からない人に教えるのでは、ありません。教え合いだと、教える方と教わる方に上下関係が成立してしまいます。「学び合い」は、全員が平等です。「学び合う」ために必要なのは、「聴き合う」関係の構築です。私はこれが一番気に入っています。学校に来て、分からないことや疑問を聴いてくれる友達がいる。聴いてくれる友達は、一番大切です。聴いてくれる友達ができたら、学校がもっと楽しくなるに違いありません。授業でつまずいても「ここはどうなっているの？」と聴ける友達がいるということは、授業も楽しくなるに違いありません。この授業では、子どもたちが取り組む課題を、教師が原則2つ提示します。みんなが解けるようになるべき【共有の課題】と教科書のレベルをはるかに超えている【ジャンプの課題】です。【ジャンプの課題】は、みんなができないから平等です。知識が豊富なだけでは解けるような課題ではありません。みんなで「学び合い」ながら解いていかないといけないのです。最後に私が考えた理科の【ジャンプの課題】を紹介しましょう。

凸レンズで日光を1点に集めることができると言います。この点にもの（新聞紙など）を置くと、焦げるから「焦点（しょうてん）」といいます。しかし本当は、どんなに凸レンズを動かしても日光を（ほぼ面積のない）点に集約することはできずに、ある程度の大きさの丸い面になってしまいます。なぜでしょう？

（みんなで解いてみてください。答えが分かった人たちは神根中・校長まで。正解は11月1日にHPにて）